

資料V 中学校時代長期欠席していた生徒の追跡調査

2校の生徒のうち中学校時代に長期欠席（年間30日以上欠席）の経験のある生徒の人数は86名（A高校全校44名、B高校全校42名）であり、「これまで十分に力を発揮することのできなかった生徒」が多く在籍していることがわかります。これら生徒の高校進学後の中途退学（以下、中退とする）または転学及び欠席状況の相関について調査を行いました。

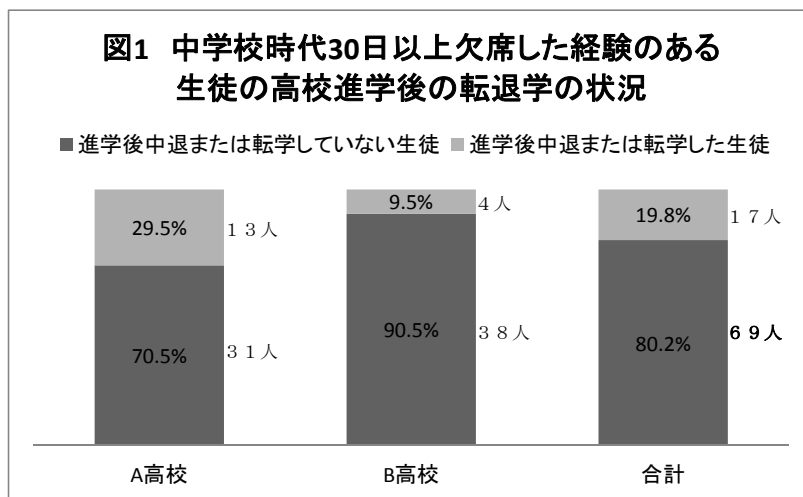
【実施状況】

- (1) 調査対象 平成24～26年度に入学した生徒のうち、中学校時代に年間30日以上
長期欠席をした経験がある生徒
- (2) 調査方法 高校進学後の中退、転学の時期と欠席日数について各高校を調査
- (3) 実施時期 平成26年12月

【結果と考察】

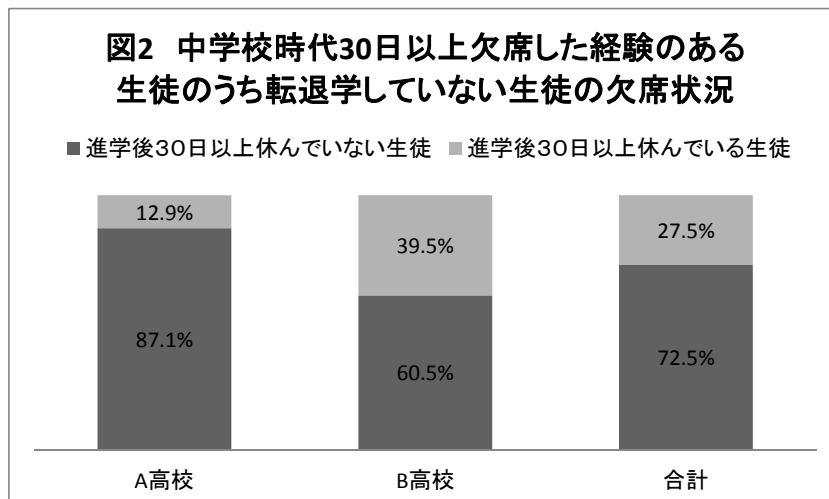
1 転退学の状況

図1より、長期欠席を経験しても、高校進学後の中退または転学せずに在籍している生徒が多いことがわかります。



2 欠席状況

図2より、高校進学後、30日以上長期にわたる欠席をしていない生徒は7割以上であることがわかります。以上のことより、長期欠席の経験があっても、入学後の生活状況が好転している傾向にあると言えます。



3 年間欠席日数

さらに図3より、長期欠席を経験しても、進学後は30%以上が欠席10日以内であり、皆勤者も約2割を超えていることがわかります。

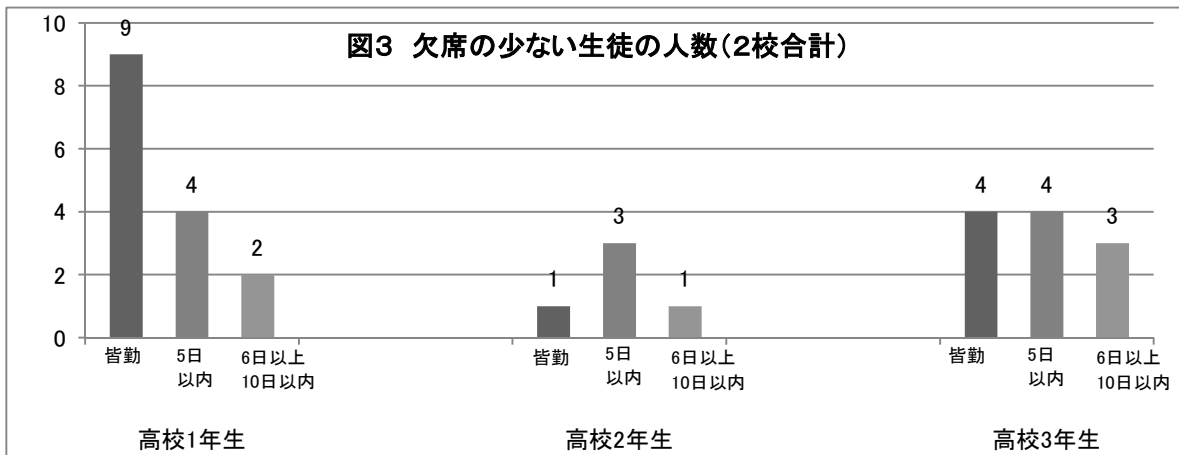
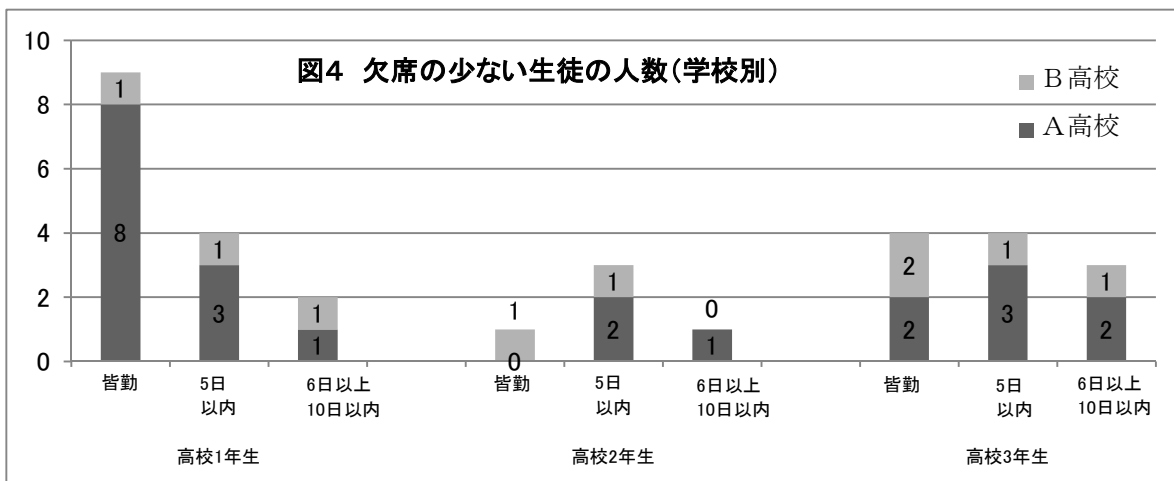


図4は図3の結果を学校別に算出しておいたものです。1年生に注目すると、A高校については8名、B高校については各学年に1名の生徒が、皆勤です。



4 長期欠席者数及び転退学者数(学年別)

図5より、長期欠席者や転退学者数は、2年時に多くなっていることがわかります。

